別紙１

団生抜本改正　単組事務負荷軽減策に対する意見集約

記入日　2021 年 2 月 26 日

県支部　　福島県支部　　記入者名前　　坂内　孝浩

1. 申込受付事務について

① 本県の場合、二段階・型セット方式を採用しており、今回から医療選択方式へ変更となることから、組合員がより多くの組み合わせの中から、比較・検討することが必要となっている。毎年共済担当者が変更となる単組もある中で、単組事務負荷の軽減策として最も重要なのは、組合員自らがスマートフォンにより簡単に掛金試算・比較ができることであると考える。スマートフォン版の入出力画面を早期に提示願いたい。

② また、スマートフォン等で組合員が試算したデータが保存できるようにするとともに、共済担当者が別端末で組合員から依頼のあった保存データを呼び出し、申込書として出力できる（補償内容の変更もできる）ようなシステムの構築を願いたい。また、電子署名による契約締結が可能となるようなシステムを検討すること。

③ 職域 web 未導入単組については、ホームページ利用を基本とするとのことであるが、利用方法等について分かりやすい資料作成を願いたい。また、各単組に対する充分な説明時間が確保できるように配慮すること。

④ 特に制度の切り替え時や、経過掛金の期間中、掛金が変更となる際に契約者が変更内容・理由等を理解できるように、申込書同封資料等について工夫すること。

⑤ 制度切り替え時の募集の際には、申込書に「おすすめプラン」（現契約をもとに抽出）として型・コース・掛金に保障額も含めて印字した申込書をもって申込受付事務を行えるようにすること。また、記載する「おすすめプラン」は、Ⓐ「現掛金と同額パターン」、Ⓑ「現保障と同保障パターン」など複数記載すること。

⑥ 申込書のやり取りについては、本部と契約者間の直送（単組を経由しないこと）を基本とすること。

⑦ 単組へ、ＨＰや制度の説明など関連したツールが設定されたタブレットを必要台数分貸与すること。

2. 掛金収納事務について

① 当月掛金額（送金額）の県支部報告について、総括票のみによる報告となる事については、評価します。

② 単組 web でも、単組加入者の掛金一覧や月毎の単組掛金一覧と詳細が閲覧できることや、長期共済、税制適格年金の解約返戻金の計算ができるなど、使い勝手を良くすること。

③ 単組で掛金の差異をチェックできるよう、掛金データについては、本部のデータを毎月、単組共済担当へ EXCEL で早めに提供すること。

3. 退職者団生事務について

① 退職予定者説明会等において、将来（退職者団生）の年払い掛金額が提示できるように、分かりやすいパンフレット等の作成を願いたい。

② 「移行後の継続加入などの事務は本部が担う」としているが、長期共済・退職後共済やマイカー共済と同じように単組に問い合わせる退職者が多いのが現実。これをいかに少なくするかが重要である。退職者（高齢者）が見て、理解しやすい内容で、問合せ先も一目で分かるような工夫が必要。各種通知文等のひな形を提示願いたい。

③ 単組に問い合わせがきた時に、「単組は関係ないので、本部に問い合わせて」とは言えない。職域 WEB で単組が契約内容・保障内容を見ることができれば、一定の説明を含め、本部窓口を案内・連携できる。

④ 既加入者に対する新制度の案内や申込み書類については、本部から既加入者へ直送願いたい（提出先も本部へ直送を基本とされたい）。

⑤ 制度切り替え時の募集の際には、申込書に「おすすめプラン」（現契約をもとに抽出）として型・コース・掛金に保障額も含めて印字した申込書をもって申込受付事務を行えるようにすること。また、記載する「おすすめプラン」は、Ⓐ「現掛金と同額パターン」、Ⓑ「現保障と同保障パターン」など複数記載すること。

4. その他、事務全般について

① 「別途検討」「検討中」の項目が多い。早期の提示と改めての意見集約が必要。

② （マイカー共済等も含めて）県支部・単組担当役職員が１つのシステムで全て確認・処理できるように願いたい。

③ 共済担当者が毎年変更となる単組もある。できるだけ専門用語を排除し、表現や文言等に配慮した分かりやすいマニュアル等の作成を願いたい。

④ 制度切り替え時の継続募集用に、団体生命共済単独のパンフレットを作成願いたい。また、年齢群団別、性別の掛金表を表示する際には、それぞれ最低掛金を強調表示するなど、組合員が検討しやすくなるように工夫すること。

以　上